特別
へ13
1483
4

門へ遠 13
1483
4

南流雲乃もを橋卷四目録

一日見文八子義金　岩極女恵

ふうく四條橋

ろうそくそめこむい
義川の子
下地いとしをりはぎ
なりろふ五馬丸義主

西小路殿の橋

三味線かのやうみまこと
のやうましぬ大臣
あるのつちぬちぶつこ
大てくさあれかこれ

恋の鶴の橋

うそと誠のたりひの
ふりくら色
あくろれ君もこまがら
海あれとこ

市流雲乃うあこ
さのふと去るくふとてし
たくふりうけもが今ハ家業とたるうこうこに
定太郎つしい殿子代しし四年にうこうこ方乃かとこ
この家の白龍とかうこうこたりこうこたりこ
うこ殿きつきふもがこいこるれぬよのふふくふくこ
八こ郎こ代郎の代郎のやくこふくこありしとたわふ家乃
うこふこうこのあくて今ハけんぐして八郎つにうて
けくいくくこ龍乃の郎の郎ふくあうこうこたりひ
あくこうこたうこうこうやハ郎つしお郎ふくひを
つうりせうこたるのぐしぐこぬれなまこいぐこうくまづ

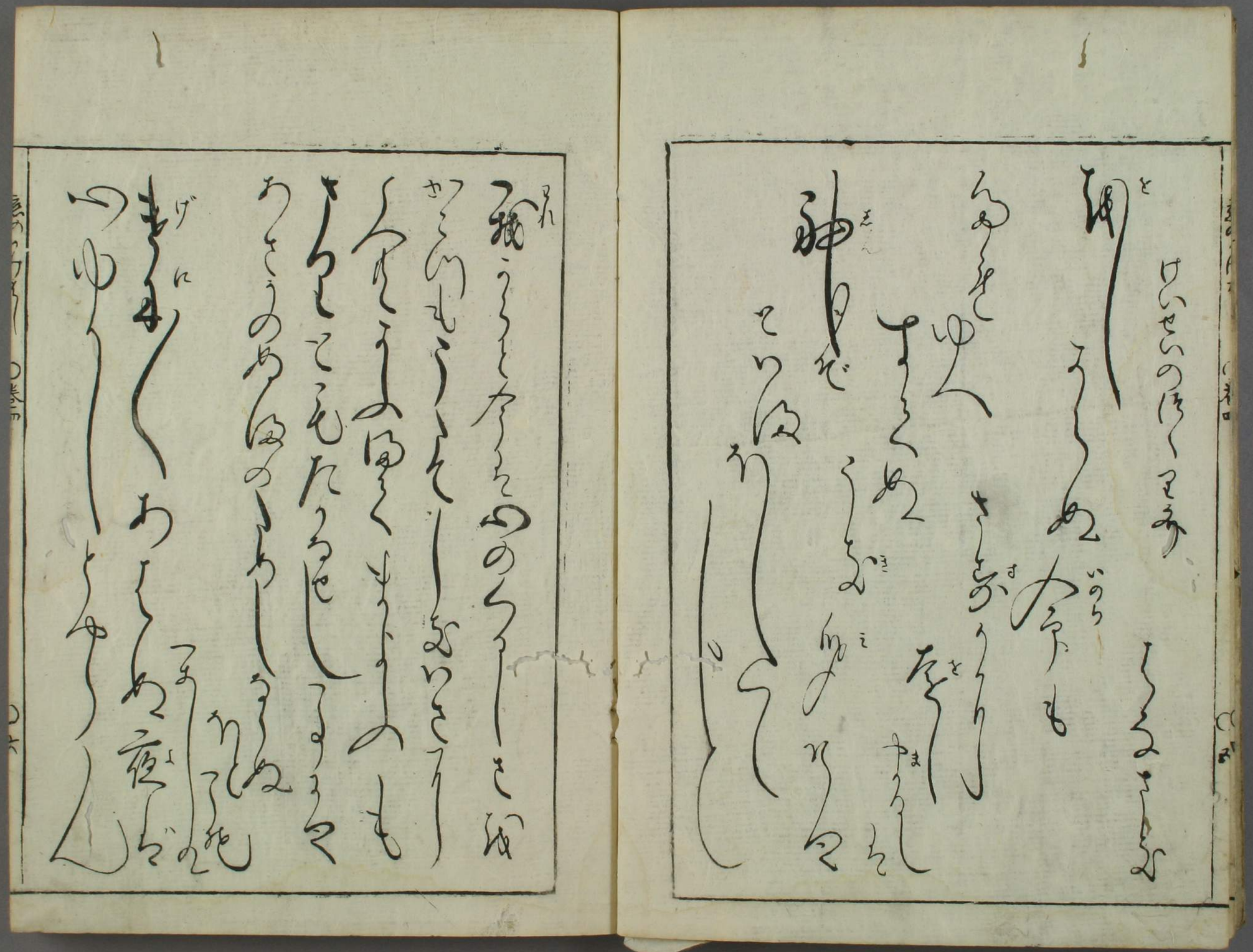
四条のそしとう（祇園八坂なかくやぶのそしてうけ町の
わそびいい殿にはよそどそ天川町の殿命白人れ大臣そど
ありてそうそ湯ぐう孫とたくども流ようちへうけを
こうふこぬやして宝右衛つうとあくづいそうこそ
ゆくうるもとそよう家先の家なもいるあ二るあなづい
そうぐんのそしおもくらぬ敬よるれいたりうせそうも
てりうりうけもどくもちぬ湯くうりいくせいし
そうそ湯れうり殿し宝右衛つ牛乳の病ん移ありく
わう湯（陽治）しけうとうれ家をのうちと四ひそ湯系
一殿のんわりそうふ宝右衛つるとふおり常伯かとりてい
たくく宝右衛つ動宝ゆれば八衛つよるも自ゆふつうを
湯ぐ家くくものとかくいい湯しうくい乳うつれや湯ひよ

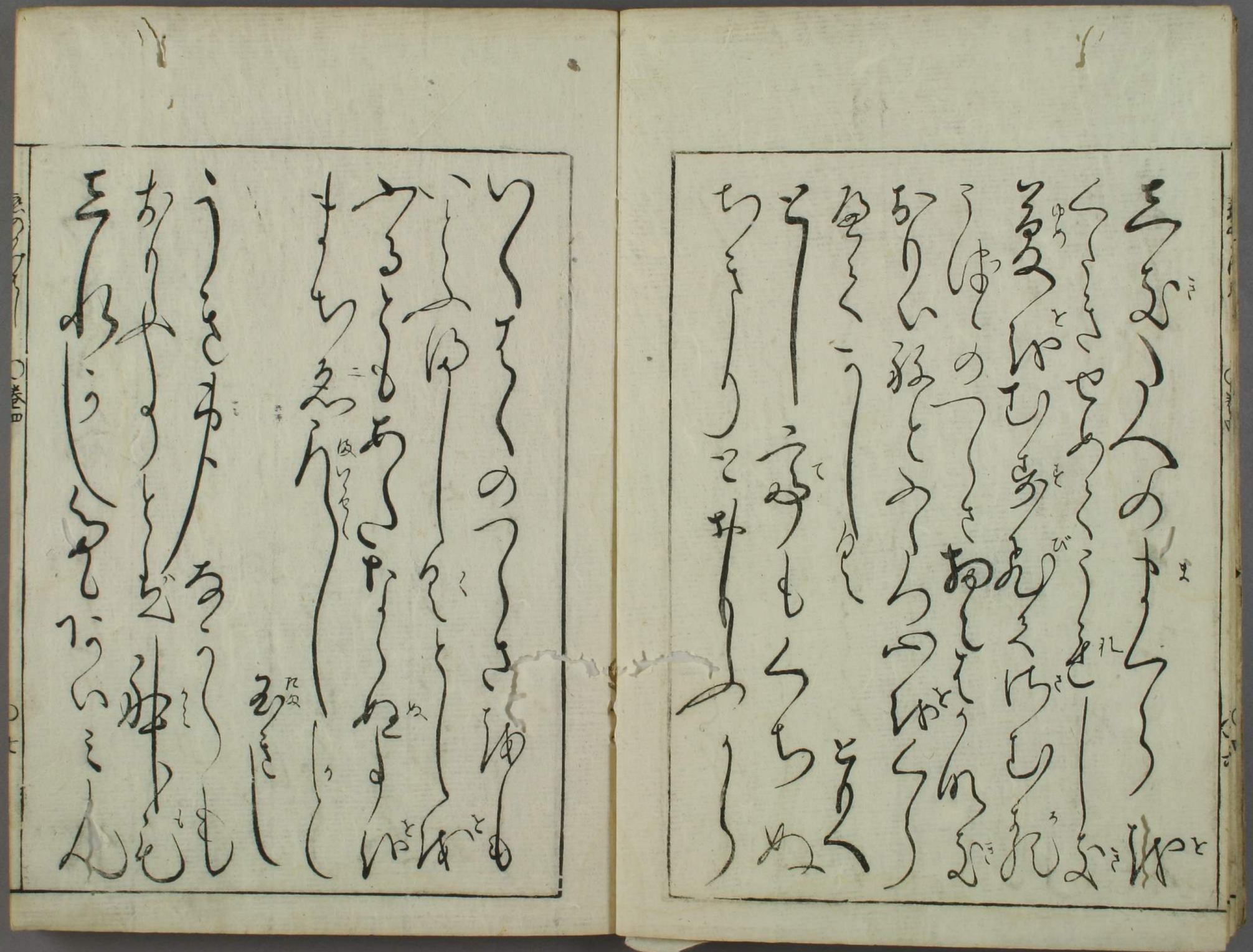
ありやそし世家のうとのうちふ乳のぐしさせんと
れそうそ孫のうるめされわりまり殿そうしありせ家
そよるやしたうら（れそくし二るあのうちるあとりおし
八衛つふひそふふやくくいい宝右衛つうるものうち動宝の
ちぐくやくふ家のうるい湯れうるとけうるい我ふ湯くふ
そふるやしたうら（れしうるれくとんちふそう
そうりくよなくくみぐよにつくくてりうそ八衛つも
湯ぐ我ありれ湯そうれりひい入は家のうるの動宝ちうくで
うくうくこの見我ぐれむうにるゆくたるれるとうし
湯くれくくこれありうぐくくふうんるいなぐしているぐくそう
うるるくく敬系のうそくくあるもい衛れるのをいたりそひ
ゆくうちふ四ひれうれる大殿そうれ湯でもう

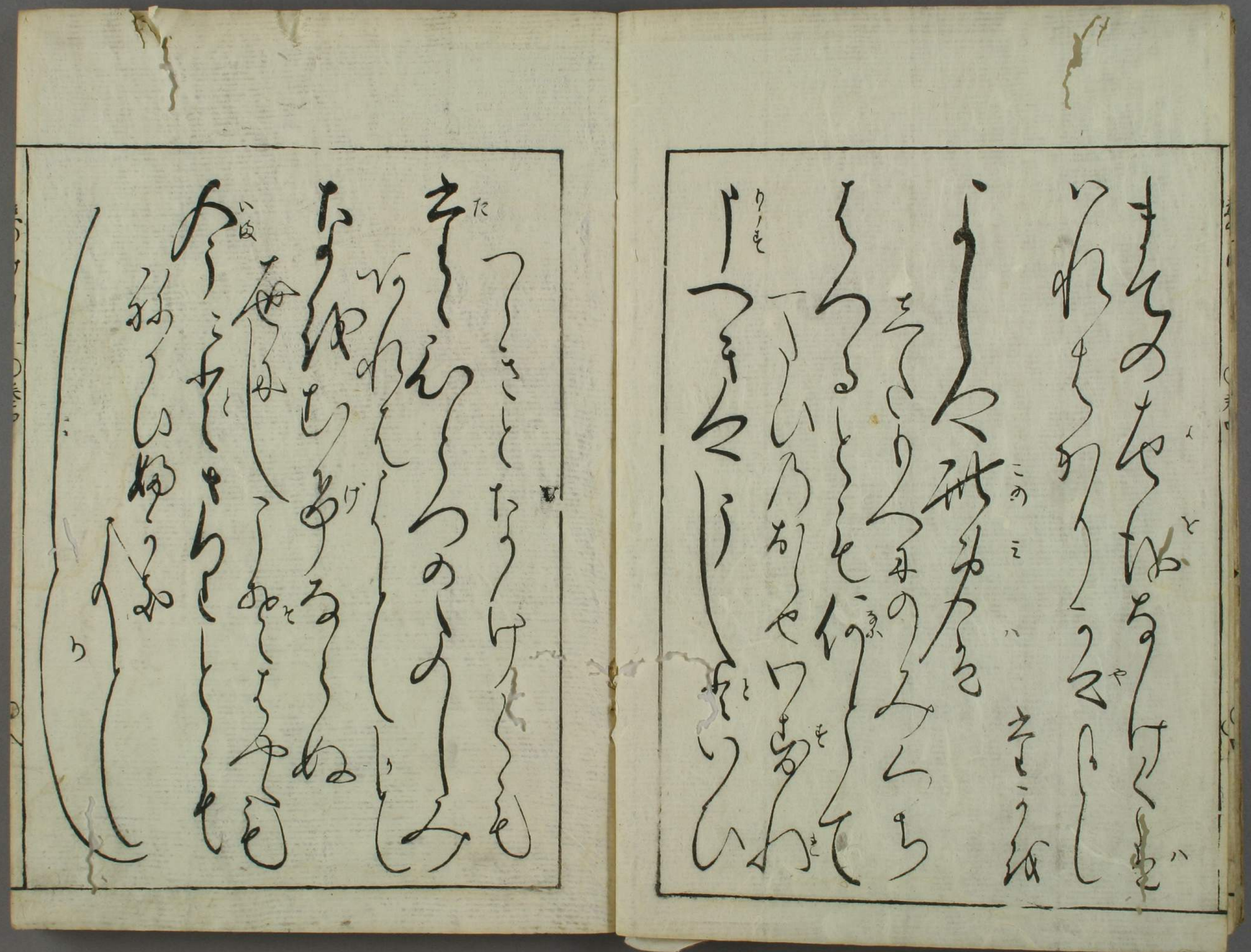
我家の手代と成りうけくつを拾くへてはいあり
うちぼくうりぐんにつをとりトぢいもそれ仕合は
なをしにそくつをふそくあそびろ一風うりけし
なをぐさみのりろうこの内いうりうりうらにそや
宮大夫つ三段ものりれ湯治うくかんぐし日うをを丈買うふ
うりて爰をのうちの勘定見けをとを行ふうくく
みけをいろこ成てしうさうりて今後く宮ちうん
ゆをけんうく八重つよう〇仏つうせしてと常倫
ゆうふい爰うをもううどゆをしうをのうちふふ傾と
ふ爰やうをしと宮大夫つい爰ふをもうを成うをるうぬ
ゆをてをかしけをけいをい町をんくゆを大臣いでを
ゆうてをれうをふ大うくを爰(おうをれとあげ慌ふ

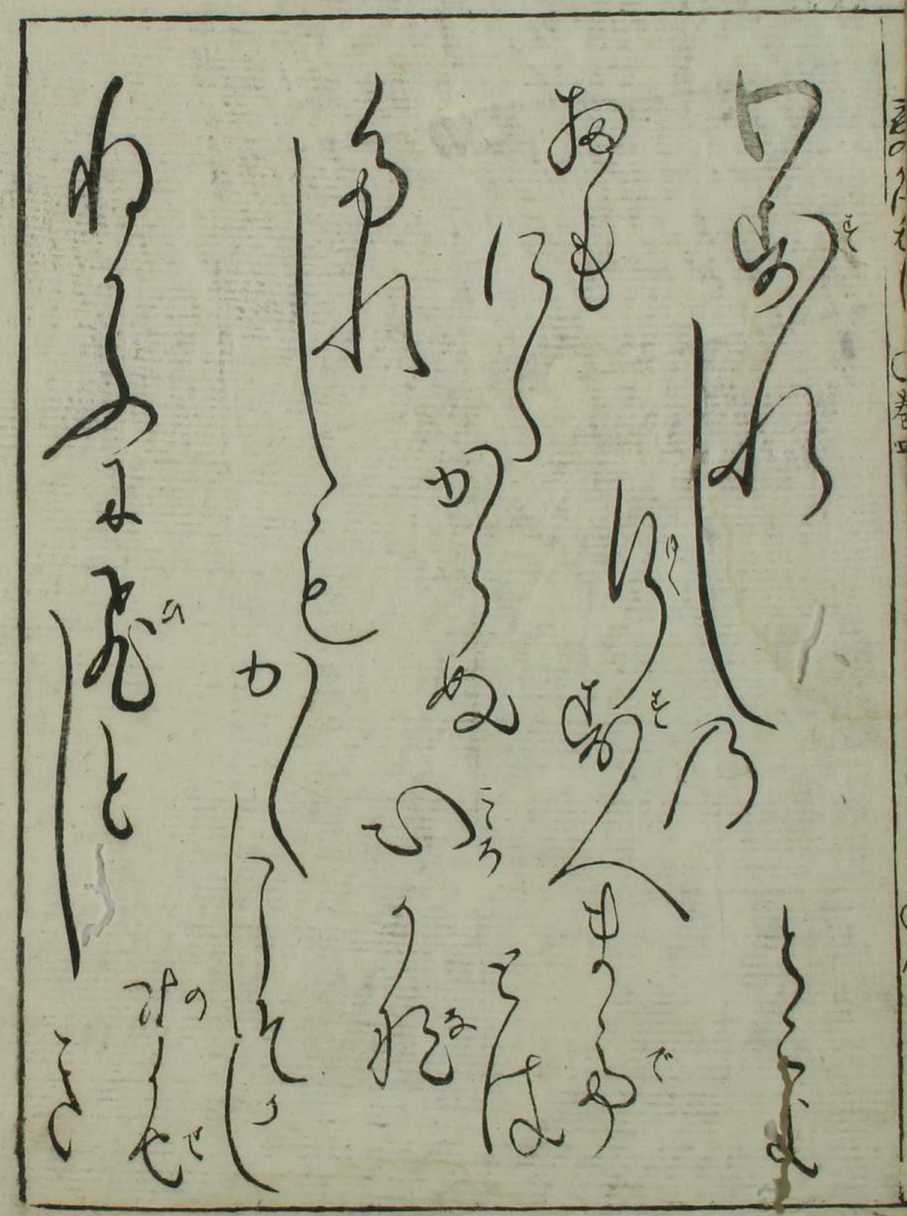
宮づかへしてはいまだ
みのうをどいふものこゝにあるやうにあるとしたくく
八重つたりといふあそびのうらふけいせいのたもとを
をのこあしにはきどくしたるをんなのこゝろをかし
かりそうろうはしおがしらうろのゆへよけいせいと足たし
ゆうしゑ女郎のそばへ八重つたりといけいせいの
つれなくさうしといふく三ようけいろうのみれどこのわるれ
ばそしらぬふりしてうらへうらと男へいたをしろ色
こしをしいたくこゝろあるやうにぜんの天ようをうちぜん
をいりふくあのわるしろうしゆのこゝぶ袖さ
後をしい天のみちをりけいせいはまをしらいろ
うその後をしりはもどきも百人にひとりぬうしい

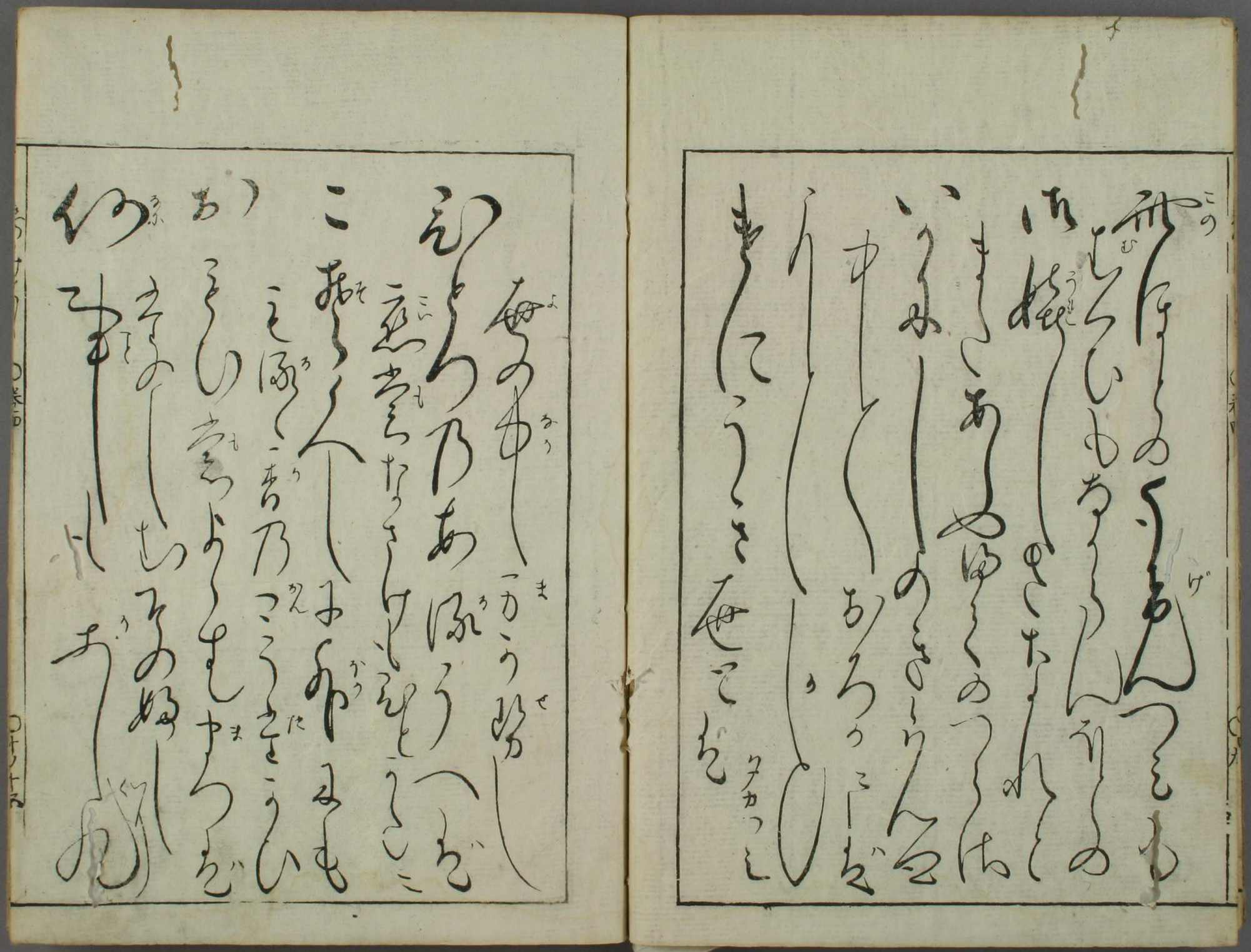
後をしいその後をしい後ぶをうくく人へう
こゝろいをみい大尾の部ふゝびの後をしいろをいぶをもをり
正尾の後をしふくうれゆへにうつけのやうはかひろ
人のしうつけふかゆからうくをゆうれをうべし
そのうへいうのうぞくしやれをのこゝもうぶし
ふうくはくべをしあふあるどをうをんし宮石帯つ
ゝうをはいうあをいさうひをやりふうゝふあれこゞよと
袖をのうち百袖をうをひ九百袖いそのまをあをどこのこ
をうひをくをあたいあうへのこゝろうゝべしこのこゝろい
るにつまりをふ一ぶいのまをうへうへのこのむあるゝんと
くぶりよんゝ袖をうゝべしはゝべゝぶゝにけいせいよ
かくせたをしうをとを後をふをしゝをみとをれば

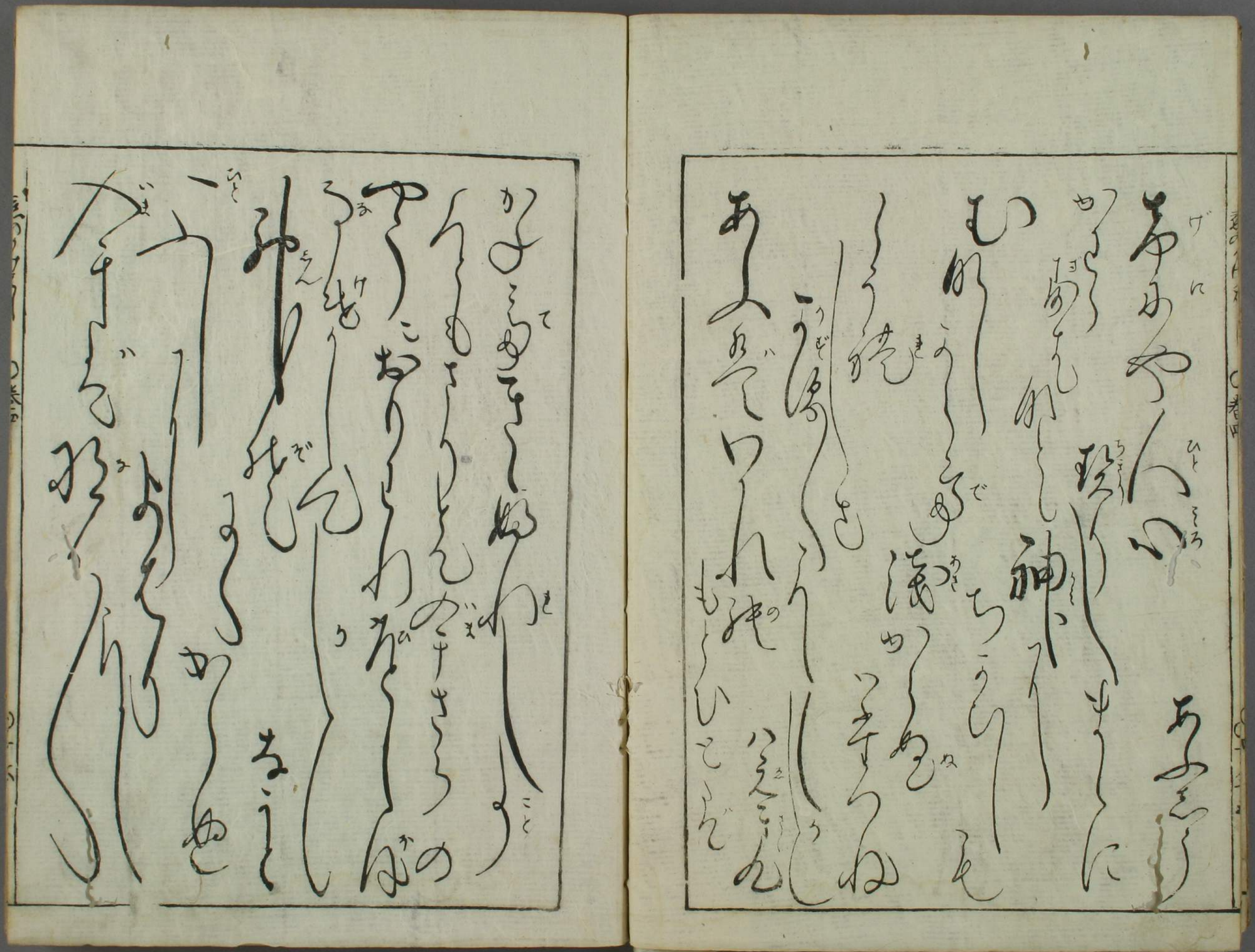


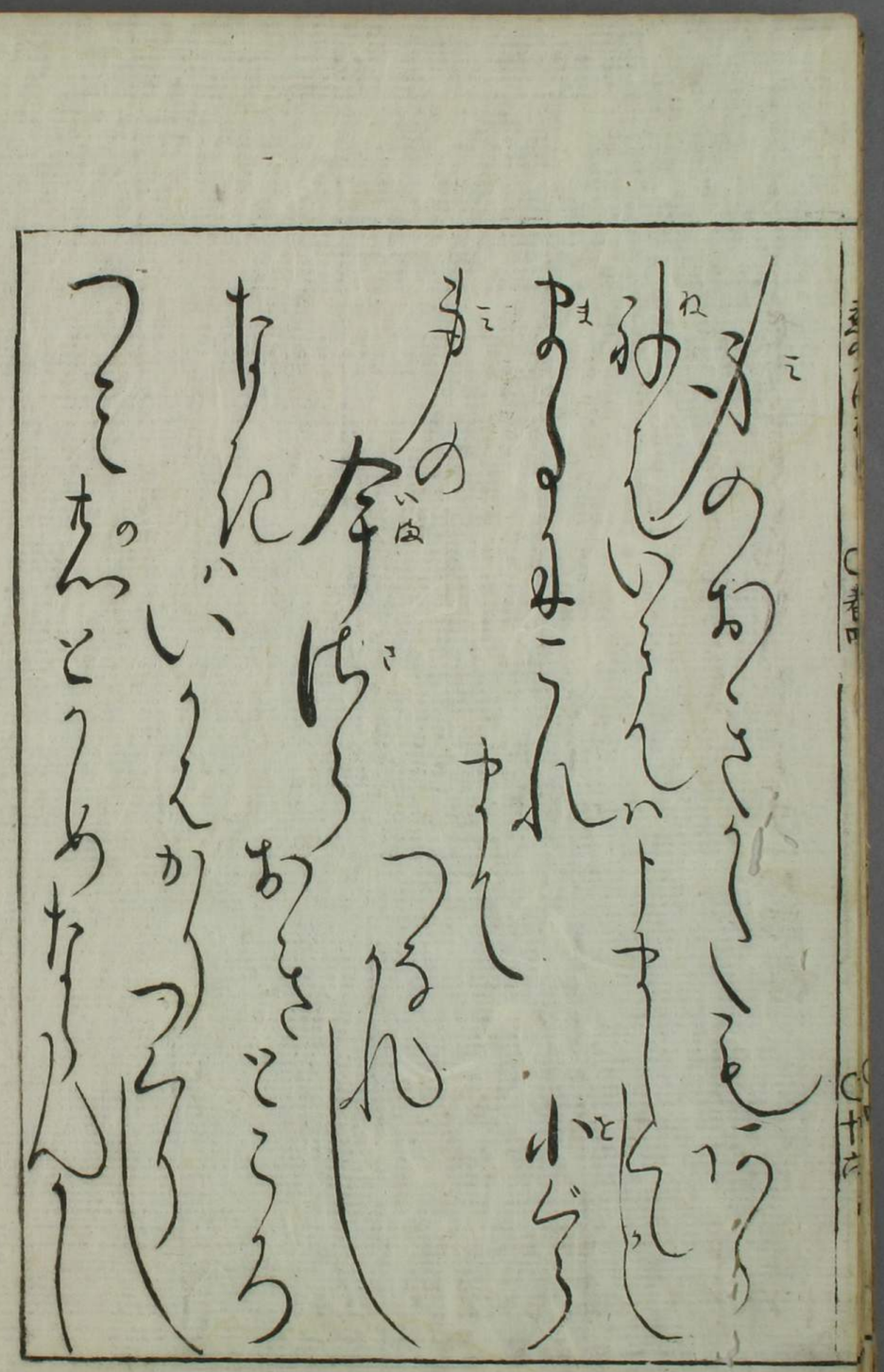


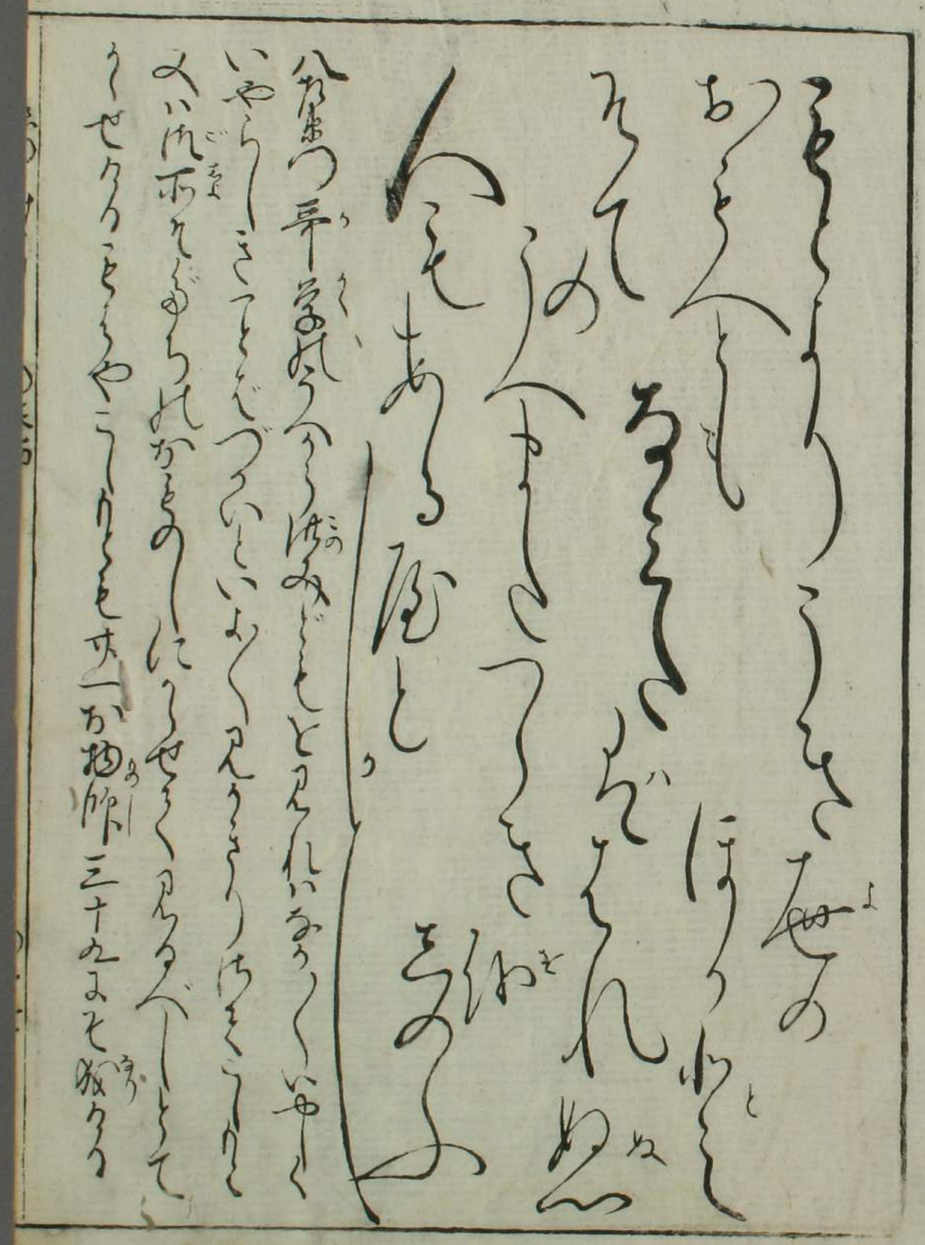


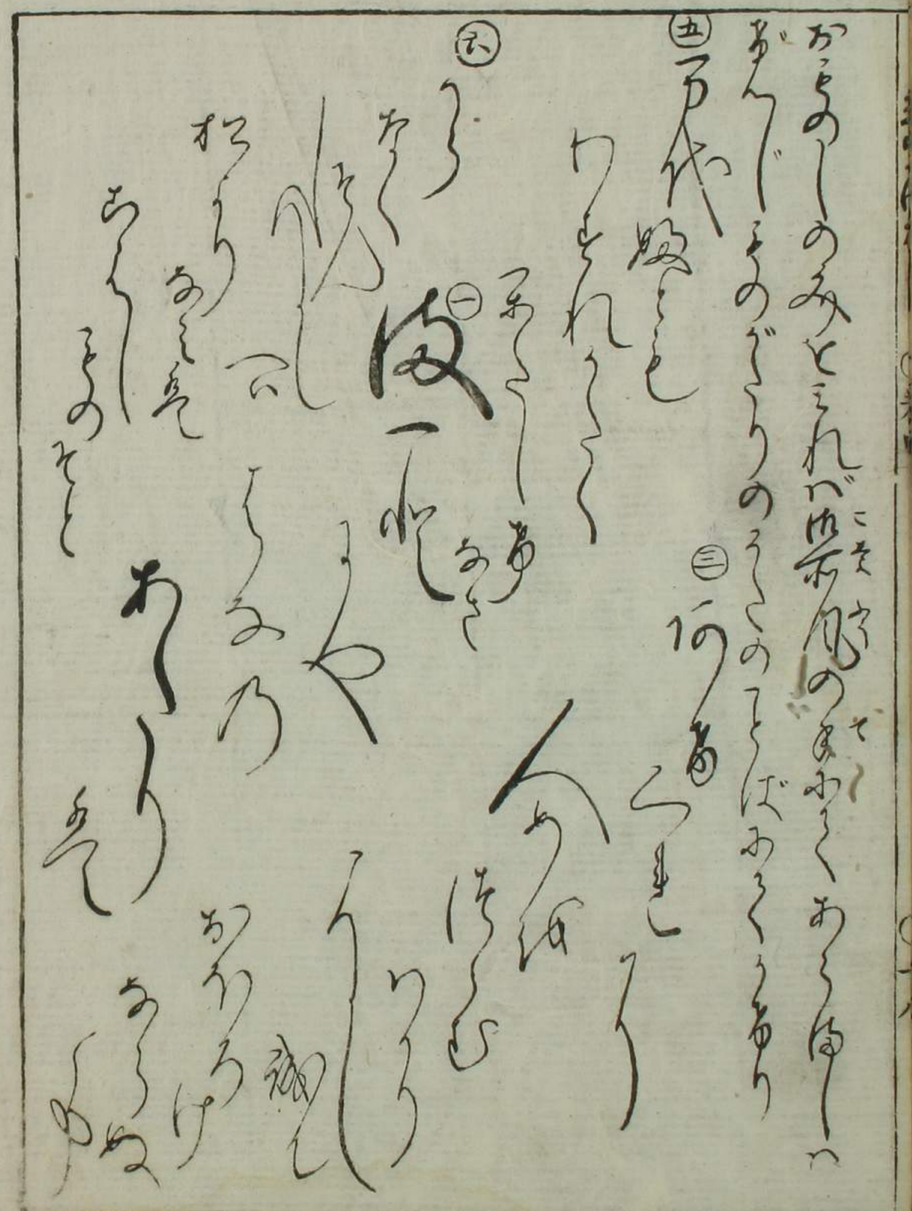


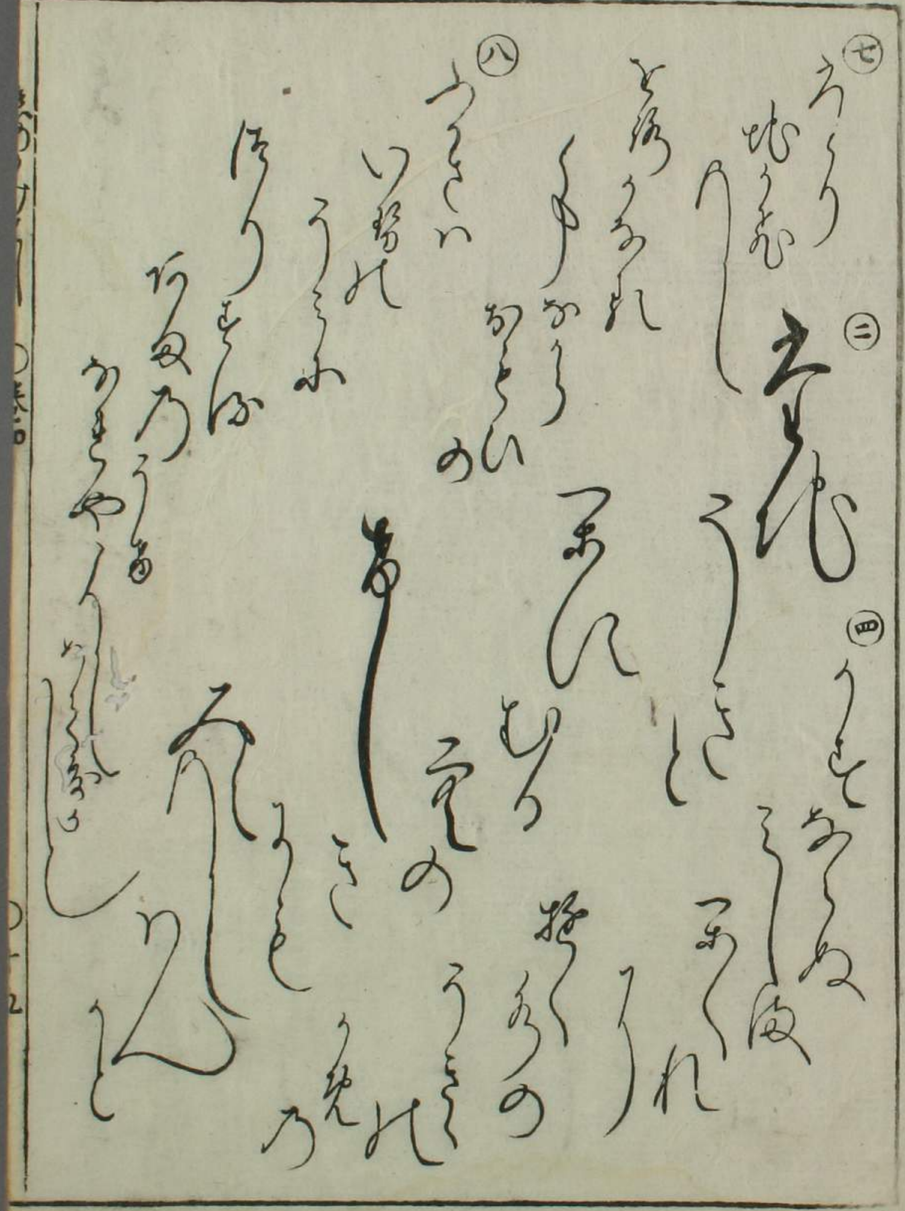












やうれめとるふうんくのんぶかりへてとあんでの
うことをうづしたりまづこうりと文章いぐんじよ
忍ありせのうこしかりひのがきろといそれぐしけいせい
ムるいしていろくの忍れかとひのがりしんうこうりとが
ちひろの数りれんをあくこうるべしのうろうるべし
ちんぐりてこうれこうりうこへうひもうもくるもし
てこうりこうこ小海ともろとんたりひにひくくひちうひ
みうるれいこうりうこれんうりうねいこのかくにんうりうも
天れちぐいにしてうこうるのちうくとしこのうう
ものうこいぼ忍ぼむしうるの海れよあうこうこうりしが
んよれしうくかいううしきふみようれてうもうとうり
ぼうもれをしうきみてこうるとうんぐうる

かこのし文章ものし為黒の書れうこうこうれいぐんぐの忍
わうむうこうこれのひうこうとれひうくれうんぐうう
るうれうこうこうりうこうるのぐくうれうしとうるに
ぬうこうて今海ぐうこうに忍れうこうもうこうれぐしゆに
うこにうきいをもやんうのうれをいうやうもべき
うこんうぼれうむをうりうれうけうくぬしいぐんぐ
うるのうこんのうこうふうくれがうけうくぬちぐうとぐ
れうくこうりうこうれうこうれうい海もうう忍のくぬうこんうう
ぼうりうきいうこうこうるのぐこいうこれきのうこうこうり
もう忍のもうこうきうこうこうこうこうたがいのやうくいうけきも
ヨうんうよひうりせいうんくぬれうこうるうこうこれい
海うこせうれうこげうこ忍うりうこうこうこれうこうひうう

けいせいのみとくらべこれがくるしさみ
てくるしかりこれとたりへがうそのあてふうとほうぶとい
ろはん一のあかうかうへ九百あのくらしうと宮右ふつ
うり毎月(まいげつ)二十あはくくまろつういと六ケ月級そのまま
ありて金(かね)くあ二十あいあるそれとつりあと金つういの
なかりのうくいはれとなりかくくくうへ徹宿(とまり)まし
うれへよかうもあしきへよりくいくしとあまい
あかくにうくてそうれくまとたりいさくくしも
ああのこうしゆ一日のうぐうんよたうどかうへこうとい
かりしのかうそれちぐうりへうてそうもしくまと

雲乃うけうし巻四終